

## 海外安全対策情報（２０１５年１月～３月分）

在ユジノサハリンスク日本国総領事館

### １ 社会・治安情勢

当地は政治的には安定しており、現在のところ緊急事態に発展するような反政府勢力等の動きは特段見られない。

また当地ではサハリン州が北方領土を「行政管轄」していることから、北方領土問題については、ロシアの他の地域と比較して極めて過敏な反応を示す傾向があり、例年２月７日（我が国では「北方領土の日」）或いは、その日に前後して当館建物前において、北方領土返還反対団体による抗議集会が行われている。なお、平成２７年については同様の集会等は行われていないが、時の日露関係の情勢に応じて抗議集会の程度や規模も異なっており、今後も引き続き注意を要する。

### ２ 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（１）一般的治安情勢に関しては、殺人や女性などの弱者を狙った路上強盗や住居不法侵入等による窃盗、あるいは銃器を用いた凶悪犯罪、未成年者も含む女性への婦女暴行、大麻等の薬物所持・売買事案が後を絶たない状況である。殺人は、飲酒によるトラブルに起因するものが多いが、金品の強奪を目的としたものも発生している。当地在留邦人が強盗被害に遭うケースも過去発生しており、引続き当地治安情勢への留意が必要である。

（２）治安当局の発表によれば、２０１４年にサハリン州において治安当局が認知し、登録された犯罪件数は１１，５０９件であり、２０１３年（１２，３３８件）と比較し、８２９件の減少となった。以下の内訳にもあるとおり、２０１４年は前年と比べ全犯罪登録件数は減少しているものの、殺人、重度傷害、強姦の人の生命に直接関わるような凶悪事件の登録件数が増加しているほか、薬物違法流通についても増加している状況にあり、また、２０１３年２月には、ユジノサハリンスク市内に所在する教会に男１名が侵入して銃を乱射し、２名が死亡、６名が負傷する事件が発生しており、これらの犯罪は在留邦人の生活安全上の直接的な脅威ともなりうるものであり、引き続き当地治安情勢はこれまで以上に予断を許さない状況にあると言える。

（３）主な内訳（括弧内は前年比）

ア 殺人及び殺人未遂：７４件（１０２．８％）

イ 重度傷害：２２４件（１０１．８％）

ウ 強姦及び強姦未遂：１９件（１５８．３％）

エ 強盗：３７件（９７．４％）

オ 略奪：３４４件（８０．９％）

カ 窃盗：４６１７件（８７．１％）

キ 詐欺：671件（94.6%）

ク 粗暴行為：8件（53.3%）

ケ 薬物の違法流通：1222件（100.2%）

（4）邦人被害事案

特になし

（5）邦人以外の被害事案（殺人・強盗等凶悪犯罪の事例）

ア 強盗

① 1月20日,サハリン州内務局当直部門に,50歳の男性からの訴えがあった。数時間前,ユジノサハリンスク市カール・マルクス通り地区において不明の人物が彼を殴り,強奪を行ったと通報した。警察は直ちに被害者の応急手当を行うとともに,医師及び機動捜査班を呼び出した。被害者の話によると,彼は友人の誕生日を祝い終え,家に帰る途中だった。祝宴の際,彼は少し飲酒した。彼が,上述の通りの外苑を通行していた際,敵意を感じる不明の若い男が彼を呼び止めた。男性は,争いになることを望んでいなかった,そして,若者の側を通り過ぎようとしたが,しかし,若者から顔を背けた際,頭に打撃を受けた。被害者は倒れ,そして,犯人は拳,足で彼を殴り始めた。その後,犯人は,腕時計を奪い,逃走した。目撃者は平静を取り戻しながら,事件現場には警察の部隊が配置されるとともに,救急隊が到着したと回想した。間もなく犯人が拘束された。犯人は,以前,同様の犯罪行為により,刑事責任を追求されたことがある地元の男であることが判った。刑事事件が提起され,盗品は押収された。

② 1月28日,コルサコフ警察の当直部門において,食料品店の強盗に関する通報を受けた。事件現場に機動捜査班が派遣された。被害者,店員及び買い物客は,警察官に夜8時ころ,3人の若い男が商店に押し入ったと話した。犯人達は,40歳代の店員と年金受給者の買い物客を床に殴り倒した。その後,犯人の内の1人がレジに走り寄り,現金が入った箱を奪った。損害額は,3万4127ルーブルになった。捜索活動措置の過程で警察官は,3人のサハリン居住の男を確認し,容疑者を特定した。無職で財物犯罪行為の前科がある容疑者全員が拘束された。この事実に関し,刑事事件が提起された。容疑者達は,拘禁下にある。

③ 2月19日,警察の当直部門において,ユジノサハリンスク市エセニナ通り地区の生花店における強奪に関する通報を受けた。店の女性従業員は,刺し傷の負傷を受けた。彼女は重症により病院に搬送された。この住所に機動捜査班が出発した。警察官は事件現場の捜査を行い,おそらく犯人は1人であったとの結論に達した。犯人は全ての売上金を奪ったほか,被害者の携帯電話も奪った。負傷を負った被害者は,犯人は無防備な女性の背中に飛び掛ってきたと話した。証拠品の収集を行いつつ,犯人の捜索活動が開始された。被害者は犯人の大体の身長と犯人が若いということだけは記憶していた。捜索活動措置の行い,刑事捜索の警察官は,容疑者を明らかにし,彼を拘束した。容疑者はユジノサハリンスク市に居住の20歳の無職の男だった。警察官

が収集した証拠は、彼の犯罪行為への関与を排除しなかった。容疑者は、金欲しさに生花店を襲うことを決めたと言った。この店は、警備が行われていなかったことから容疑者に狙われた。客が居なくなるのを待っていた犯人は、店に立ち寄り、店員に商品陳列台の花を見せてほしいと要求した。店員が犯人に背を向けた際、犯人は背中に飛び掛り、犯人はポケットからナイフを取り出し、被害者の首を刺したほか、背中を数度、刺した。その後、犯人は、現金の入った鞆と作業台の上にあった携帯電話を奪い、急いで事件現場から姿を消した。犯人が奪った金は9000ルーブルだった。この事実に関し、10年までの自由剥奪のほか、100万ルーブル罰金の罰則が規定された強奪の刑事事件が提起された。容疑者に対し、拘束による身柄保全処分措置が取られた。

- ④ サハリン警察がユジノサハリンスク市ルゴーボエ計画地区の郵便局の建物からの1200万ルーブルの強奪を報告した。犯罪の遂行で前科がある1974年及び1982年生まれの2名のサハリン居住の男に嫌疑をかけている。強奪は3月20日金曜日、19時30分ころに発生した。犯人達は、郵便局の建物内部に通じる1階の窓を閉鎖している格子を水圧式ニッパーでこじ開け、窓ガラスを割り、侵入した。その後、犯人の内の1人が格子をよじ登り、内部に侵入し、住民納付及び年金交付金の現金を奪い取り、正面玄関を通じて郵便局から出た。これは全て、郵便局職員の目の前で起こった。強奪は勤務時間終了の少し前に発生した。犯人の搜索及び拘束は警察の全ての勢力が注ぎ込まれた。サハリンの捜査班は、両容疑者の拘束に3昼夜を要し、3月24日火曜日に容疑者達を拘束した。現在、容疑者達は捜査隔離室にあり、近日中に彼らに対し、身柄保全処分措置が取られることとなるだろう。最高刑は、同様の犯罪に対して7年までの自由剥奪が規定されている。容疑者達から約60万ルーブルが押収された。捜査によると残りの現金は、彼らが借金の返済及びその他の支出に使用された。このことから、捜査班は国家の損害への賠償が行われると期待した。強奪は年金の交付に影響しないと個々に回答している。ルゴーボエの住民達は、普段どおり、年金の全額を受け取った。

## イ 殺人、過失致死等

- ① サハリン州捜査委員会ティモフスク捜査課において、ティモフスク市ユビレイノイ通り14に所在のあるアパートにおいて、暴力による死亡の痕跡がある25歳の地元男性の遺体を発見したとの通報を受けた。この犯罪行為を行った容疑で21歳の被害者の同居の女が拘束され、この女に対し、刑事事件が提起されるとともに、拘禁による時効停止措置が選択された。捜査によると、1月1日夜、容疑者と被害者は一緒に商店から家に戻った。玄関において、彼らの間で喧嘩となり、その過程で被害者の男性は、容疑者の女を突き飛ばした。それにより、女は膝から倒れ、ストッキングが破れた。彼女は家に入り、セラミック製のナイフを手に取り、そして、被害者の男の胸部を一度刺した。ナイフで受けた傷により、男性は事件現場で亡くなった。

- ② 1月1日夜,サハリン州捜査委員会ポロナISK捜査課において,ポロナISK市ザーパドナヤ通り15の所在のあるアパートで暴力による死亡の痕跡がある19歳の地元男性の遺体を発見したとの通報を受けた。この犯罪を行った容疑で前科のある31歳のポロナISK居住の男が拘束された。この男に対し,刑事事件が提起された。市裁判所の訴状により男は,拘禁での時効停止措置が取られた。捜査によると,被害者は,姉のもとを訪れ,そこで彼と姉の夫との間で電灯の紛失に関して,被害者が盗んだとして疑い,喧嘩となった。その後,被害者は,電灯を見つけたが,それを持ち主に返還しようとしなかった。この際,被害者は容疑者を侮辱したことから,容疑者は,キッチンに行き,ナイフを手に取り,被害者の背中をナイフで3度刺した。ナイフで受けた負傷により被害者は救急隊が到着する前に亡くなった。
- ③ サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク市捜査課は,1月10日朝,固形一般廃棄物処理場区域において,暴力による死亡の痕跡がある34歳のウズベキスタン人男性の遺体を発見したとの通報を受けた。ロシア刑法典の重大な健康被害の惹起により,刑事事件が提起された。1月13日,この犯罪行為の容疑により,41歳のウズベキスタン出身の男が拘束された。現在,予審判事により,容疑者に対し,拘禁による時効中断措置の選択に関する問題が解決された。捜査の説明によると,被害者は,容疑者の妹と一緒に居住していた。容疑者の妹は,すぐに返すと約束し,被害者から金を借りた。1月7日,被害者は,金を回収するため,オクチャブリスコエ村の容疑者の家を訪れ,そこで喧嘩となり,その過程で容疑者はナイフを掴み,被害者の腰部を刺した。ナイフによる負傷により,被害者は,事件現場で死亡した。その後,容疑者は,遺体を家から運び出し,ごみ捨て場に捨てた。証拠の収集及び確保の捜査活動が続けられている。
- ④ 1月12日夜,コルサコフ警察の当直部門において,オーゼルスキー村の女性住人により,アパートで暴力による死亡の痕跡がある2人のロシア人男性の遺体が発見されたとの情報を入手した。警察官は同様の前科を有する29歳の地元男性が犯人として浮上した。間もなく,犯人は拘束され,今後の捜査のため,犯人は警察に送られた。容疑者は独房に一時的に置かれている。
- ⑤ 1月24日,サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク捜査課において,ユジノサハリンスク市レーニン通り314のあるアパートにおいて,胸部を刺された39歳のアパートの家主の遺体を発見したとの通報を受けた。捜査が続けられ,死亡の原因となった受傷状況が明らかにされた。捜査の結果によっては,訴訟の決定が選択されることとなるだろう。
- ⑥ 2月12日サハリン州捜査委員会ユジノサハリンスク捜査課において,ユジノサハリンスク市ゴーリキ通り14の住宅の地下部分において,鼻の骨折及び顔に内出血の暴力による死亡の痕跡が認められる18歳の地元男性の遺体を発見したとの通報を受けた。この事実に関し,重大な健康被害の故意の惹起により刑事事件が提起された。この犯罪行為を行ったことにより,ユジノサハリンスク居住の14歳,18歳,19歳

の男が拘束され、彼らに対し、拘留による身柄保全処分措置が取られた。捜査によると容疑者達は、被害者と共に地下室においてアルコール飲料を飲んでいて、その後、被害者は気分が悪くなり、就寝した。この時、犯人の内の1人が被害者のポケットから電話と現金を抜き取った。その後、被害者は目覚め、持ち物がなくなっていることを発見し、彼は、連中に盗まれた物を返すよう要求した。容疑者達は、手や足で被害者の頭部、体に多数の打撲を与え始め、同時に、被害者の体と頭に跳び蹴りをし始めた。被害者は身体に受けた傷により、亡くなった。

- ⑦ サハリン州捜査委員会ホルムスク捜査課において、ホルムスク市ペルボマイスク通11に所在のアパートの1室において、この部屋の60歳家主の遺体を発見したとの通報を受けた。この犯罪行為を行った容疑により、24歳のオムスク州に住む女が拘束された。この女に対し、刑事事件が提起された。捜査によると容疑者の女は、被害者から部屋を借りていた。1月の終わりに、容疑者が被害者のもとを訪れ、そこで飲食が始まった。飲食の過程で、彼らの間で喧嘩が起こり、容疑者が被害者の頭部を瓶で殴り、更に、ナイフを手を持ち、被害者の胸部と腹部を刺した。この受傷により被害者は事件現場で亡くなった。その後、容疑者の女は、ドアを閉め、施錠し、姿を消した。この事件に関し、捜査が続けられている。
- ⑧ 3月4日朝、サハリン州捜査委員会マカロフ地区捜査課において、マカロフ市レーニン通り7に所在のあるアパートにおいて51歳の胸部にナイフの刺傷のような肉体的な負傷のある妻の遺体を発見したとの通報を受理した。直ちに、事件現場に捜査局刑事捜査官、マカロフ地区捜査課捜査官、警察官、鑑識官が出発した。事件現場で捜査局の捜査官が犯罪に使用されたナイフを発見し、押収した。捜査によると、被害者の25歳の息子が被害者をナイフにより負傷させ死亡させた。この事実に関し、殺人の犯罪痕跡により刑事事件が提起された。
- ⑨ 3月8日夜、ネベリスク中央病院の診断室に刺傷のある26歳の地元男性が入院した。この日、この男性は、意識を回復することなく、受傷により亡くなった。この事実に関し、31歳の前科がある地元の女を拘束した。重大な健康被害の故意の惹起により刑事事件が提起された。同時にこの女に対する拘禁付身柄保全処分に関する請願書がネベリスク裁判所に送られた。捜査によると3月8日、容疑者は同居男性と彼の両親とともに祝日を祝っていた。夕方近くに、酒がなくなり、女は酒を買いに商店へ出掛けた。通りで、女は男性と知り合いになった。女は家に戻り、男性と知り合いになったことを話したところ、このことで同居男性とこの女の間で喧嘩となった。同居男性は女を家から追い出そうとした。女は荷物を纏めながら、家具を壊し始めた。被害者の両親は、不平不満を言い出し、なぜか女は、包丁を2本手に取り、バルコニーに行き、そこに居た同居男性の胸と腹を何度も刺した。刑事事件により証拠の収集と確保の捜査活動が行われている。
- ⑩ 3月11日朝、サハリン州捜査委員会ドリンスク捜査課において、ドリンスク市パ

ドゴルナ通19に所在のあるアパートで背中、胸、首に刺傷の暴力的な死の痕跡があるルチイ村居住の46歳の男性の遺体を発見したとの通報を受けた。この犯罪行為を行った容疑で41歳の地元の女が拘束され、この女に対し、殺人により刑事事件が提起された。現在、捜査機関により、女に対し拘禁付身柄保全処分に関する問題の決定がなされた。捜査によると、被害者は、上述の住所に同居男性とともに居住していた。3月10日、彼女らのもとに友人と知り合いではない男性が訪れた。夕方近くに容疑者の女は起床した。目覚めると彼女は、友人達がいなくなり、同居男性が就寝し、キッチンに卑猥に言葉を吐きながら女に情交を迫ってくる被害者男性が残っているのを見た。侮辱的な言葉により、容疑者の女は、ナイフを手に取り、被害者の腹部を一度刺した。しかし、争いは続き、被害者男性は、容疑者の女が持っていたナイフを取り上げたが、女は違うナイフを手にとった。女は被害の体の様々な部分を何度も刺した。被害者が床に倒れた際、女は木製の棒を手に取り、被害者男性の頭部を何度も殴った。その後、女は着替え、ナイフを投げ捨て、就寝した。刑事事件により、証拠の収集、確保の捜査が行われている。

- ⑪ サハリン州捜査委員会ノグリキ地区捜査課は、3月10日にノグリキ市フィズクリトゥルナ通り8に所在のあるアパートで刺された痕跡がある46歳のこのアパートの男性家主の遺体及び自動車運転訓練用練習場の土地において、同様の刺された痕跡がある前科がある38歳の地元男性の遺体を発見した事実について、殺人により刑事事件を提起した。3月13日、殺人を行った容疑者が明らかとなった。容疑者は36歳の地元の男だった。捜査官によって、この男に対し、拘禁付身柄保全処分措置が取られた。捜査によると容疑者は、足の骨折の後、歩行の際に強い痛みを感じていた。3月9日夜、容疑者は酒を飲みながら、鎮痛剤を持っている麻薬精神科医である男性のもとへ出発した。男性のもとには容疑者が知っている前科がある地元男性が居た。容疑者は部屋の中に入るとアパートの男性家主に麻酔剤を要求し始めた。家主は激しく怒り、容疑者をアパートから追い出そうとした。容疑者は、ナイフを手に取り、被害者の体の様々な部分を何度も刺した。殺人を目撃していた被害者のもとを訪れていた前科がある男性は、その場は何とか殺人の矛先から逃れることができた。その後、容疑者は犯行に使用したナイフと遺体を隠すため、目撃者とともに自動車運転練習場のある地区に出発したが、そこで目撃者と喧嘩となり、その過程で容疑者は目撃者を何度もナイフで攻撃し、怪我を負わせた。司法当局の共同捜査の結果、不明確な重大犯罪の状況が明らかにされた。現在、起訴のため、事件状況及び基礎証拠確保の捜査が行われている。

#### ウ 暴行・傷害・強姦等

- ①〔傷害〕1月14日17時ころ、ホルムスク警察の当直部門において、救急隊員から24歳の地元男性がナイフによる負傷で病院に搬送されたとの通報を受けた。男性は

右胸部負傷及び気胸と診断された。事件現場の機動捜査班が派遣され、親子喧嘩の過程で57歳の被害者の父親がナイフを手にとり、被害者の胸部を刺したことが明らかとなった。重大な健康被害の故意の惹起により刑事事件が提起された。容疑者に対し、現在地を離れないことに関する誓約書での時効中断措置が取られた。

- ②〔傷害〕1月26日、救急隊によって、州立病院に32歳のユジノサハリンスクに居住の女性が搬送された。医師は、彼女は誰かに頭蓋開放性外傷、頭部の髪の毛部分の裂傷、顔の血腫の負傷を負わされたと診断された。直ちに、患者の居住地に機動捜査班が発発した。アパート内で警察官は、容疑者である前科がある41歳のユジノサハリンスク居住の男を発見した。捜査の過程で、行き過ぎた飲酒により日常的に喧嘩になり、重い裂傷を与える原因となったことが明らかとなった。警察官は、彼らの間で争いが発生する前に、彼らは、ウォッカ2本を飲んでいたことを明らかにした。事件現場から警察官が、被害者に殴り、負傷を与えた椅子、褐色の斑点が付いた物の断片及びナイフを押収した。また、飲酒により、同居人の間でつかみ合いが起こったのを3人の未成年の子供が見ていた。現在、この事件に関し、捜査が続けられている。

- ③〔傷害〕3月2日深夜、管轄外警備指令室において、ある地元娯楽商業センター（シティーモール）における、社会秩序違反に関する通報を受けた。州管轄外警備の警察官は、数分後には、この所在地に到着した。騒動はすでに収束し、警察の関与を必要としなかった。しかし、警察官が施設から出ようとした際、施設に付属するレストランの従業員が駆け寄り、このレストランで喧嘩が起こっていると助けを求めた。警察官は、事件現場に赴き、そこで、彼らは床に倒れている2人の男性を発見した。倒れている男性の1人は、胸部にナイフによる傷があり、もう1人の男性は、頭に傷を負っていた。この男性達のために救急車が呼ばれ、一方、機動捜査班が事件現場に到着した。目撃者の話によると、男性達の間で言い争いとなり、すぐに殴り合いに発展した。喧嘩の過程で、男性達の内の1人が、ナイフを手に取り、もう一方の男性の胸を切りつけた。その後、ナイフで切りつけた男性は、けが人から離れはじめ、バランスを崩し、転倒した。転倒の結果、男性は、床に強く頭をぶつけ、頭部外傷を受けた。この事件に関して、現在、捜査が続けられている。

- ④〔暴行〕サハリン州捜査委員会ホルムスク捜査課は、16歳と18歳の地元の男に対し、刑事事件を提起した。捜査によると3月5日深夜、未成年の容疑者とその友人はアルコールによる酩酊状態にあり、容疑者の親権を剥奪された母親が住む家に到着した。母親は、アルコール飲料を飲んでいる容疑者達を見た。容疑者は暴言を吐き、一緒に居た容疑者の友人達は、母親の客の1人である32歳の被害者を腕や足で何度も激しく殴り始めた。その後、彼らは被害者を階段の踊り場を置き去りにした。被害者は、頭蓋内外損傷、前頭蓋骨骨折の重症の診断を受け、病院に入院した。頭蓋骨の損傷は重篤な状態である。刑事事件により、捜査活動が行われ、証拠の採取及び確保を行っている。

- ⑤〔傷害〕3月8日の深夜、ドリンスク警察において、救急隊員からサビエツキー村に住

む50歳の女性が医療援助を救急隊に求めており、出動したとの通報を受けた。女性は、胸部と腹部の刺傷により病院に搬送された。この住所地に警察官が出発し、捜査を行い、事件状況を明らかにし、53歳の夫を容疑者として拘束した。この日の夕方、夫婦は、友人達と被害者の誕生日を祝った。彼らはアルコール飲料なしでは済まなかった。祝宴の最中、夫と妻の間で言い争いが起こった。夫の突然の嫉妬から、夫はナイフを手に取り、妻を少なくとも2回刺した。この事実に関し、刑事事件が提起された。

- ⑦〔傷害〕3月27日金曜日の夕方、ウグレゴルスク在住の45歳の女性は遅くに帰宅したところ、52歳の彼女の夫がそれを避難し始めた。夫は我を忘れ、喧嘩の際、夫は妻を酷く殴り始めた。妻は暴力に耐えながら、包丁を掴み、夫の腹部を負傷させた。夫が血を流しているところを見て、妻は救急車が必要であると理解し、彼女は救急隊と警察に電話した。到着した救急隊員は被害者を入院させた。同様に妻に対しても熟練した救助を要求された。医者が彼女には脳震盪、多数の怪我、額と耳殻の内出血、眼窩出血と診断された。事件現場に警察官が到着し、アパートの調査を行い、包丁と足跡を採取した。妻は感謝の言葉を申し述べた。現在、喧嘩に関与した両名は病院に居る。この事実に関し、刑事事件が提起された。

## エ 窃盗等

- ①〔窃盗〕1月15日ユジノサハリンスク警察の当直部門において、ユジノサハリンスク市中心部のあるバス停留所において窃盗行為があったとの通報を受けた。28歳の女性住民のハンドバックから現金と銀行カードが入った財布が無くなっていた。全ては、プロのスリによる犯行であると連想された。バスの停留所には、沢山の人がいる場所にあり、近くには小さな市場がある。一連の捜索措置を行い、刑事捜索課の警察官は、女性容疑者を拘束し、彼女を警察署に護送した。犯人は、30歳の地元住民である「女スリ」であることが明らかとなった。2014年に犯人は、すでに同様の犯罪行為での前科がある。この事実に関し、刑事事件が提起され、容疑者の女は、拘禁下にある。窃盗物は押収され、被害者に返還された。
- ②〔窃盗〕2月18日夜、ネベリンスク警察の当直部門において、地元のある貴金属店から略奪未遂に関する通報を受けた。直ちに事件現場に機動捜査班が出発した。商店の従業員は、閉店間近に若い男が店に立ち寄ったと話した。当初、彼は簡単に商品を見ていたが、その後、従業員から遠い商品陳列台に近づき、そこから総額30万ルーブルの金製のブレスレットを抜き取り、出口に向け突進した。女性従業員の内の1人が困惑することなく、犯人のジャケットを掴み、犯人を捕らえることに成功したが、そのせいで手から奪ったものが落ちたが、犯人は、すり逃げ、姿を消した。刑事事件捜索の警察官は、被害者から事情聴取を行ったほか、急いで店を去った不明者を見た目撃者を見つけた。警察官は、犯人の容姿を詳しく描写することができたとともに、若者がどの方向に逃げたのか明らかにすることができた。数時間後、犯人は拘束され、警察に連行され



た。犯人は、31歳の財物窃盗の同様の前科があるユジノサハリンスクの住民だった。この事実に関し、刑事事件が提起された。

#### オ 薬物・銃器

- ①〔銃器〕1月10日深夜、オハ警察の当直部門において、同市ツァプコ通り地区のある家屋において銃声を聞いたとの通報を受けた。通報があった住所に到着した警察官は射撃に使われた軍用武器を発見した。幸いにも、住民には被害は無かった。射撃により、部屋の内の1つの出入口のドアに穴が開いた。事件発生直後に、警察官は前科ある26歳の地元の男である犯人を拘束した。数時間前に男は、隣の部屋でアルコール飲料を飲んでいたことが明らかとなった。宴席には彼と家主のほか、更に4名が参加していた。男は、アパートの隣の部屋の25歳の女性家主を気に入った。しかし、女性は彼に危険の兆候に気づき、すぐに、同居者とともに自分の家に戻った。容疑者は、別の手段で気に入った女性の注意を引くことを決めた。容疑者は、家主のもとにある猟銃が入った金庫の鍵を手に取り、そして、金庫から12口径の散弾銃を取り出した。犯人は、バルコニーから何度か空に向け射撃を行い、その後、アパートの通路に出て、気に入った女性が住む部屋の出入口に1回射撃を行った。容疑者は拘束され。粗暴行為により、刑事事件が提起された。
- ②〔薬物〕サハリン州流通麻薬対策局の捜査官に、ある市民がSMSを通じて、秘密の場所で買受人に合成麻薬を販売しているとの情報がもたらされた。犯罪を明らかにするため、流通麻薬対策局の捜査官が一連の措置活動を行い、その結果、合成系麻薬の違法販売を行っていた不明の個人と共謀していた31歳の男を明らかにした。流通麻薬対策局の捜査官は、麻薬売買の当番の際、麻薬販売人を拘束した。事件現場の検査の過程で、流通麻薬対策局の捜査官は、粉末状の物質が入ったポリマー製の小袋を発見した。押収した粉末物質の総量は約6グラムであった。その後、捜査官は、容疑者の身体検査及びアパートの検査を行い、その結果、1キログラムの合成麻薬を発見、押収した。概略の総量で約5000回の使用量であり、麻薬購入者の中には未成年者がいることがわかり、麻薬販売人とその共犯者は数百万ルーブルを受け取り損ねた。サハリン州流通麻薬対策局の捜査課によって、容疑者達に対し、大量麻薬の売買により刑事事件が提起された。この犯罪条項には、20年間の自由剥奪刑が規定されている。
- ③〔薬物〕サハリン税関は、コルサコフ港ターミナルにおいて、麻薬を所持していた船員を拘束した。客船は、他の船舶に乗組員を送り届けるため、ロシア連邦排他的経済水域に向け、出港しようとしていた。税関検査の過程で、乗客の内の1人の個人のバックの中から植物由来の混合物が入った包みを発見した。包みは乗客の財布の中にあり、麻薬物質の存在は、麻薬犬によって示された。船舶検査及び鑑定人が検査のため提出された物質をハシシオイルであると確認した。押収されたハシシオイルの量は0.21グラムだった。40歳の沿海地方に居住の男に対し麻薬物質の密輸容疑で刑事事

件が提起された。2014年にサハリン税関において、麻薬及び類似物の密輸事実により2件の刑事事件が提起された。両事件において、船舶乗組員がハシシ（押収総量は112グラムになる。）の輸入を試みた。この内、1件の刑事事件は、重い罪に分類される犯罪により、刑事事件が提起され、20年間までの自由剥奪刑が規定されている。

- ④〔薬物〕流通麻薬対策局の職員は、合成系麻薬の販売に従事していた犯罪グループの活動を阻止した。16歳から19歳の若者が麻薬ビジネス組織活動者を構成していた。数日前、流通麻薬対策局の職員のもとに、2名の若者が犯罪の謀議に加わったとの情報があった。彼らは、社会ネットワークにおいて、偽名の下、新たな身分を持ち、その身分を通じて麻薬を販売していた。その後、顧客達は、彼らの提案に関心を示し、組織活動者達に現金を送金した後、「置き場所」についての電子的な通報を受け取った。犯人達の下には、麻薬販売人のほか、彼らと同じ年代の者及び青年のサハリン居住者を中心として固定客が集まった。全ての犯罪ビジネスの関係者を拘束するため、流通麻薬対策局の捜査官は、複合的な活動措置を実施した。多数の個人の検査、麻薬ビジネス組織活動者達の車及び住居の捜索が行なわれた。違法取引に対する作戦の結果、約100回分の使用量の合成麻薬が押収された。麻薬ビジネス組織活動者達の内の1人は、極最近、18歳になり、そして、彼の女性補佐役（同棲者でもある）は16歳であることを強調する必要がある。その他、この少女は、生後8ヶ月の子供の母親でもある。現在、犯罪グループのメンバーに対し、刑事事件が提起され、捜査が行われている。
- ⑤〔薬物〕サハリン州流通麻薬対策局の捜査官は、コルサコフ地区におけるカンナビス系麻薬（大麻系麻薬）の調達及び販売を行っていた犯罪組織の活動を根絶した。活動措置の過程で、流通麻薬対策局の捜査官は、固定客グループと首謀者を明らかにした。特殊活動は、約2昼夜、麻薬を販売していた全ての関係者の拘束によるものである。麻薬ビジネスマン達（30歳～32歳）は、麻薬セットを受け取り、組織関係者のある家に送り届け、長時間、麻酔剤を多数の少量分包に従事した。定量分包後、麻薬商人は、麻薬の一部の販売に取り掛かり、この際、法の監視者により拘束された。約10名が拘束された特殊作戦の結果、身体検査、アパート及び技術拠点、自動車の検査が行われた。流通麻薬対策局の捜査官は、約1キログラムのハシシオイル及びマリファナを発見、押収した。現在、拘束された者に対し、大量麻薬の販売で刑事事件が提起され、捜査が行われている。この麻薬の量は、数千回分の使用量になる。麻薬商人は100万ルーブルの利益を失った。

### 3 誘拐・脅迫事件発生状況

特になし

### 4 日本企業の安全に係る諸問題

特になし

